



ともしび保育園 9月1日 発行

## 側にいられるということ

9月に入ってからまだまだ暑い日が続きそうですね。もう少し子どもたちには水を楽しむ時間がありそうです。

新型コロナウイルスの影響で『人との適切な距離をとる』というのは生活の中で当たり前になりました。『リモート』という言葉も身近になり、仕事で活用している方もいらっしゃるのではないのでしょうか。保育士が参加する研修もリモート開催が目立ちます。私自身リモート研修は不慣れな為、画面の向こう側の人との会話は間の取りずらさや、質問のしずらさ等を感じながら学んでいます。直接会って話せることのありがたさをしみじみと実感しました。

子どもたちは生活の中で様々なことに興味を示し「どうして?」「なんでだろう?」と周りの友だちや大人に尋ねたり、心の中の疑問がポロっとこぼれ落ちることがあります。乳児クラスでは大人との会話が多いのですが、幼児クラスでは子ども同士で「ねーなんでだろう」と共感したり、「〇〇なんじゃない?」と会話をすることで新しい発見をしたり、新しいあそびに繋がる姿もみられます。また「どうしてだと思っ?」と尋ねられると、悩みながらも「こうだと思っ」と自分なりの考えを口にしています。生活の中で考えることや自分の意見を聞いてもらう体験を重ねていきます。『聞いてもらう体験をすることから相手の話しにも耳を傾けられるようになる』という言葉は、以前学んだ研修でも印象深い言葉でした。

育てている野菜や花に直接触れること、カブト虫やメダカのお世話をすることもお家でもできるけれど、『友だちと一緒に』というところに家庭とは違う魅力や発見があるのではないのでしょうか。実物に触れながら笑顔で会話をしている姿は何とも微笑ましいです。みんなで一緒に過ごせるからこそその経験ができるように日々を大切に過ごしていきたいと思っます。

副主任 幸 利衣子